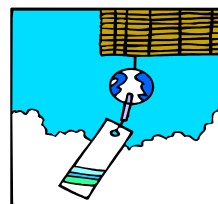


京都精神保健福祉士協会

きょうと通信

NO. 55



2007年 8月

事務局：財団法人 長岡記念財団内
〒617-0843 長岡京市友岡4丁目18の1
Tel：075-951-9201(代) Fax：075-954-1210(代)
E-mail：office@kyo-psw.org

【9月例会のご案内】

日 時：2007年9月1日(土) 14:00～17:00
会 場：京都府職員福利厚生センター 会議室
テ ー マ：「居宅介護（ホームヘルプ）事業 ―ヘルパー業務の実際と課題―」
講 師：中山 雪奈 氏
（京都福祉サービス協会高野事務所在宅相談員 介護福祉士）
森田 智津子 氏
（京都福祉サービス協会高野事務所ホームヘルパー 介護福祉士）

京都市で精神障害者居宅生活支援事業が開始され早5年が経過しました。障害者自立支援法が施行された後も徐々に利用者は増加しています。ホームヘルプは、利用者の生活の場で日常生活を支援する活動であるが故、一人一人の生活の在り様や生活問題、体調やペースなど個別ニーズへのきめ細かな対応が要求される活動です。また、単に不足している生活能力を補うということだけでなく、衣食住の場でこそできる、同じ生活者としての触れ合いが利用者にとって意義あるものとなっています。

そこで、今回は現場で活動されているホームヘルパーの方に、実際のサービス提供の内容に加え、どんな事に苦慮され努力されているのか、サービスを提供している中での喜びや実感など、エピソードを交えお話ししていただきます。

地域生活支援を考える上で、居宅介護の果たす役割や課題を理解しておくことは大変重要なことであり、さらにその課題について精神保健福祉士として何ができるのかを考えてみたいと思います。

【6月例会報告】

日 時：2007年6月2日(土) 14:00～17:00
会 場：京都府職員福利厚生センター 会議室
テ ー マ：先輩の実践（活動）から学ぶ
講 師：村社 孝子さん 財団法人 長岡記念財団 生活訓練施設アスロード
鈴木 淳子さん 医療法人 高木神経科医院 デイケアおいけ
参 加 者：30 名

6 月例会では、精神保健医療福祉の分野で草創期から医療機関や行政、そして社会復帰施設での実践を続けてこられた村社孝子さんと鈴木淳子さんに、ワーカーとして大切にしてきたことを語っていただいた。その時代や状況、そして働く場所が変わっても大切にしなければならないことを改めて確認できた。また、村社氏の「病院での仕事に悔いなし」「生まれ変わっても PSW という職を選びたい」と言い切れる PSW という仕事への誇りや、鈴木氏の「次の世代にきちんと伝えバトンタッチしたい」という熱い想いを強く感じた時間であった。

以下、エッセンスを掲載する。

◆村社さん「変わっていくもの・変わらないもの」

精神衛生法の時代、ライシャワー事件をきっかけに保健所が第 1 線機関になったころ、京都府に配置された 4 名の精神衛生相談員のひとりとして入職。座敷牢が残る時代で、自分の方から保健所に相談に来る人は稀。“福祉”という観点に立つ余裕はなく、未治療の人たちを医療につなげるため地域を走る。情報が乏しい中、精神の病をもつ人の家を一人で訪問し、どんな状況か、困っていることは何か、何をすればよいのか、手探りの日々だった。専門職である以上弱音も吐けず、不安、孤独、そして自分との戦いであった。その後一度退職。8 年後に医療機関の PSW として復職。宇都宮病院事件が起きた時代、人権を重視する意識改革のうねりが始まる頃であった。医療機関の中で、PSW の視点を問い続けながら、必要なら“何でも屋”として活動する。現在は、障害者自立支援法という新たな転換期。今、PSW がすべきこと何か、また模索を始めている。

変わらないもの（大切にしてきたこと）

- ・どんな場合でも尊厳を守らなければならないこと
- ・人との出会い、そのときを大切に、一期一会の気持ち
- ・自分ひとりのできることの限界を知る（一人で抱えこまない）
- ・真に共感できないことを知る（分かったつもりで土足のまま上がらない）
- ・自分の言葉の一つ一つに責任を持つ

次の世代に伝えたいこと

- ・いつの時代も、時代の要請により PSW に求められる役割を感知し、考え、仕事を切り開いていくことが求められる。

◆鈴木さん「私の実践」

幼少期は今から思えば、粹にはまらない個性的な人たちに囲まれた生活。看護学校を経て京都府立洛南病院での看護婦としての実践。「夜勤はひとりで見回らない」「甘やかさない」「詰所に患者は入れない」「電話や手紙はチェックが必要」など、日常の中に「なぜ？」と問う出来事ばかり。患者さんと世間話をするだけで「『〇〇して欲しい』という要望が出ると困る」と注意されたり、立場の違いを見せるための白衣の存在に疑問。あたりまえの疑問から目をそらさない！をモットーに活動。

保健所の保健婦、精神保健相談員としての実践。自らの活動を振り返るために仲間と実践報告集や年表の作成、「窓の会」を結成し精神保健医療福祉について考えたことを投稿など経験を形にする活動。同時に、生活の場を支えようと自宅への訪問活動に重点。持ち込まれた相談にはきっちり応えよう、まずは行動！

そして、精神科デイケアでの実践。全人権的な人と人のぶつかり、向き合い、共に過ごす時

間の重大さと責任を感じながらの実践。

大切にしてきた視点

- ・人としてあたりまえの生活、人権を守る姿勢
- ・どんな時、どんな事にも、なぜ？どうして？という疑問を持つ
～法・制度、人、上司・同僚に対して～
- ・ひとりでできることはする。できないことは、仲間を作り、共に動き、語り合う
～愚痴を愚痴で終わらせない、できるだけ形に残す～
- ・つなげる つながる
- ・「病」を抱えて生きている人の基本に、まず暮らしがある

次の世代に伝えたいこと

- ・「もやもやを自分なりの形に（理論化）できるか？」「この仕事を苦楽（くるたの）しんでいるか？」～苦勞のない仕事はない。苦勞を楽しめているか？～
- ・それぞれが仕事をしている時代背景が違う。その中でどう実践、行動していくのかが問われる。これからの時代を作る世代にきちんとバトンを渡したい。

報告者：編集担当花房 6月例会担当山本

【6月例会 感想文】

北山病院 渡辺郁さん

この3月に大学を卒業し、4月から精神保健福祉の現場に入った私にとって、今回が初めての例会への参加でした。初めての例会で、村社さんと鈴木さんという大先輩のお話が聞けたことは、本当に貴重な時間でした。

精神衛生法の時代から、障害者自立支援法が施行された現在まで、この数十年の間に、ずっと現場で先頭に立って実践を積んでこられ、まさに今の私たちが立っている土台を作ってこられたお二人の姿に、ただただ圧倒されました。その中でも、何よりも、お二人が徹底して“現場主義”を貫いて来られた事が深く心に残りました。受け身のソーシャルワークではなく、自らの足で地域に出ていき、当事者の生活の場へ出向いてそこで何が起きているのかを自分の目で確かめる、このフットワークの軽さこそ、PSW の実践の最も重要な部分であるのではと強く感じました。

私は現場に出てまだ数ヶ月ですが、村社さんや鈴木さんのように、現場にしっかりと立ち、当事者の方、他職種の方、地域の方々など、多くの人々との出会いから沢山のことを学んでいきたいと思います。今回の例会で得ることの出来たこの学びと、村社さん、鈴木さんとの出会いを今後の自分自身の実践に生かしていきたいと思います。

ジョイント・ほっと 下村洋介さん

今回の例会の冒頭、佐藤さんから「先輩の姿がかっこいい」との言葉がありましたが、お二人の先輩のお話からは、特別なことはない、ごく当たり前のことをされていたことがよく分かります。それは支援する側、される側といった一方的なものではなく、「病気の有無によらず、その人への尊厳を忘れない」「人と人との関わりあいが必要」といった事柄です。これらは当たり前のこと。ですが、その当たり前のことを何十年も継続されていたのがすごい！「こうした方がいい」とマニュアルのない中で、迷い、手探りで続けてこられるには、大変な苦勞もあり

だった様子でした。現在、私たちは自立支援法によって「当たり前が続けていけるのか」と胸を痛めることが多くあります。ですが、どんなに大変なことがあったとしても大丈夫。楽しさを上手に見つけ、仲間で支えあいながら、当たり前のことを忘れず続けよう、と元気の出る例会でした。

【リレー職場紹介】

京都博愛会病院 野呂 さやかさん

私の所属する京都博愛会病院は、天然記念物である深泥池（みぞろがいけ）のほとりに建っています。四季折々に表情をかえる池や、その池に住む生き物や植物などの自然に恵まれた場所です。先日、かるがもの親子が院内の駐車場を横断してびっくりしました。また、山からおりてきた鹿にばったり出会い、お互い驚いて固まってしまったこともあります。

そんなのどかな当院は、精神科の他に内科・消化器科・外科・神経内科・整形外科・リハビリテーション科・眼科・耳鼻科・泌尿器科・皮膚科・歯科の診療を行う総合病院です。精神科の入院病棟をもつ総合病院ということで、身体的な治療目的のご相談もたくさんいただきます。

私の所属している精神科相談室には、現在3名のソーシャルワーカーが勤務しています。入院相談や受診時のインテーク、入院中の相談や退院支援、訪問看護をはじめとする地域での生活支援等を行っています。相談室のすぐ隣にはデイケア美登呂（みとろ）があり、ソーシャルワーカー1名と看護師が1名勤務しています。私は週1回デイケアにはいって絵画グループを担当しています。

就職して4年目になる私が、今大切にしていることは「ふつうの感覚を持ち続けること」「その人がその人生の主人公であることを忘れないこと」です。どちらも当たり前のことなのですが、病院という組織の中で、医療的な見方・考え方をしている自分にハッとすることがあります。その見方が良くないとかそういう意味ではなくて、自分は医療機関の中にいるけれど、「〇〇さん」というひとりの方と一緒に悩み、考えられるソーシャルワーカーでありたいと思っています。また、その方の人生に入り込みすぎたり、支援と言いながらその方の大切な「経験」を奪ってしまっているのではないかと悩むこともあります。「自分の人生を生きていく」その場面に立ち会わせていただけた“縁”に感動しながら、これからも悩み、学ばせていただきたいと思います。

2007年度第2回役員会報告

日時：2007年7月21日（土）13:30～17:30

場所：高木神経科医院 会議室

出席：（役員）亀海 熊取谷 斉藤 菅生 月川 中瀬 西村 姫野 前田 物
（事務局）賀来 瀧井

欠席：佐藤 議長：物 書記：賀来 瀧井 報告書作成：物

総会以降の経過報告および検討事項など

1. 事務局

- 総会について：出席者数の事前把握について、準備、運営をスムーズに実施するには把握できたほうがよいとの提案があり、検討課題とした。参加者数、各議案審議の結果（賛否者の数）が曖昧であったが、その場で明らかにするなど運営委員は運営を徹底することが確認された。非会員の傍聴は、原則、公開とし、議案内容により非公開とすること。

非会員の受付、傍聴席などを設けることが確認された。

- 役員会について：総会準備などを考慮し現状の奇数月開催から、原則、偶数月開催に変更することとした。活動旅費について、役員、会員とも、現状の職場から会場までの往復から、実費弁償に変更することとした。
- 会員へのメール配信について：セキュリティー問題からアウトLOOKエキスプレスウェブメールに変更しメール配信しているが、トラブルが多く配信作業に時間を要しているとの報告がされた。
- 会員名簿の作成について：書式を変更し、50 音順、機関別一覧と 2 種を掲載する。変更届未提出者も多く曖昧な情報を確認することに時間を要したり、思うように作業がはかどらないとの報告がされた。
- 日本精神保健福祉士協会から：都道府県協会代表者会議開催（10 月 14 日）の案内があり、中瀬会長の出席予定を確認した。都道府県協会現況調査の依頼について、会員数、事業報告、事業計画などについて情報提供（総会議案書の提出）することとした。権利擁護についてのアンケート協力依頼（成年後見人養成モデル研修開催参考のため）について、権利擁護委員会が担当し返答することとした。

2. 研修研究部

- 例会：9 月例会、11 月例会の進捗状況について報告された。11 月は会員から演題を募集しミニ学会を開催する。募集は 8 月発行通信で案内する。12 月、2 月、3 月例会について、専門委員会で開催時期を相談することが確認された。
- 初任者研修：対象者への案内を終え、メール配信、通信掲載により全会員に開催の案内予定であると報告された。今年度予算に計上していなかったため予算について検討した。講師には講師料、運営スタッフには旅費を支給する。また、他の事業も含めて会員の活動費支給についての議論があったが、現時点では「日当」は支給しないという現状のままですすめることを確認した。
- 権利擁護委員会：アンケート集計作業について検討しているとの報告がされた。次回委員会を 8 月 19 日に予定している。
- 倫理について考える委員会：冊子完成を今年中に予定、例会の企画運営を予定している。初任者研修、第一日目「倫理」枠を担当するとの報告がされた。
- 実習検討委員会：役員改選により、現在、担当役員不在の状態であり、今年度の活動についても休会とするか不明、前担当役員に確認することとした。
- 医療観察法学習会：第 1 回（6 月 20 日）集まりの報告がされた。新メンバー 1 名が加わり 6 名となった。4 月に提出した今年度計画を修正した。学習会 2 回、例会 1 回を開催予定、テーマは他府県や諸外国の状況把握、京都の実態についてを検討中である。
- 障害者自立支援法委員会：早急に委員会として立ち上げ、施行後の実態把握のほか当協会としての取り組みについて検討および実施を行う。通信にて委員募集を予定している。

3. 組織運営部

6 月 25 日第一回委員会を開催、規約改正・役員選出規則改正・処分規程などについて検討したと、作成された各案が提出された。各案について意見交換し、さらに意見収集し、今年度中に案を完成させるべく検討を重ねていくとのことが報告された。

4. 通信情報部

- ホームページ：7 月 25 日に事務局にて立ち上げ作業を実施し、今後の運営について話し

合う予定、役員は期間限定でアップするのでその間に確認するようにとの報告がされた。
プロバイダー契約について確認した。

- 通信：文責の使い方について検討したことが報告された。例会報告について、例会担当者
と通信担当者との役割について検討した。また、役員会報告等の校正について確認され
た。

5. 会計

調査研究費用の各委員会の割り振りについて、会費未納者への徴収について確認された。

6. その他

- ①第8回精神保健福祉士全国統一模擬試験開催について、11月4日（日）、キャンパスプラ
ザ京都にて実施する。メール配信にて会員にお手伝い要員を募ったところお一人から申し
出があった。当日までにあと2名を確保する必要がある。事務局は物が担当するとの報告
がされた。
- ②ソロモン先生講演会開催の提案について承認した。
- ③次回役員会は、10月20日

【掲示板】

●11月例会実践報告（ミニ学会）の演題募集について

11月例会は、ミニ学会方式による実践報告を予定しております。

私たちは意外と隣の施設が何をしているのか、よく知らないということがあります。そ
こで、「最近、こんなことにチャレンジしています」「こんな活動のまとめをしましたので
報告します」「日頃こんなことで悩んでいるので参加者の知恵を借りたい」・・・そんなこ
とを各会員に報告し討議できる場を提供することを目的に計画しました。日頃の皆さんの
取り組みについて、報告してもらい、学び、振りかえる場として活用して頂ければと思っ
ております。

会員の皆様から演題を8月31日（金）まで募集したいと考えております。テーマは、
自由で、発表時間は、1演題あたり15分程度を予定しております。

是非、自分たちの活動について、発信したいと考えている方は、ふるってご参加くださ
い。なお、11月例会に関しましては、演題者・参加者共に会員限定とさせていただきます。（事
例などを扱う場合は、当協会のガイドラインに沿った形で報告頂きます。）おって、詳し
い内容については、会員の方々へメール又は郵送でご案内させていただきます。

【問い合わせ先】

TEL : 0774-72-0979（直通）

Eメール : a-kumatoriya95@pref.kyoto.lg.jp

担 当 : 熊取谷（京都府山城南保健所）

※日中出かけている事が多く、メールの方が連絡取りやすいと思います。

●今年度より「初任者研修会」を始めます！

京都精神保健福祉士協会では今年度初めての取り組みとして、初任者研修を行うこととな
りました。初任者研修は精神保健福祉士としての価値や視点、基礎的な知識のほか、当協会の成
り立ちや活動目的等について学び、同じ専門職としてともに活動していく基盤を育む機会とな

ることを目的としています。今後初任者研修は入会 3 年以内に受講していただくことになり、今回対象となる方については郵送で、またその後メール会員の方にはメールでもご案内させていただきました。すでに3年を経過している方についてもご希望があれば受講していただけます。今年度のプログラムは3回シリーズで下記のとおりです。

	日時	会場	テーマおよび講師
第1日目 (必須研修)	9月9日(日)	京都市健康保険組合 保養所「きよみず」	①京都精神保健福祉士協会の歴史と活動 ②協会についてオリエンテーション ③精神保健福祉士の倫理について ④交流会
第2日目 自主研修Ⅰ	10月13日(土)	調整中	社会資源について知ろう！
第3日目 自主研修Ⅱ	11月18日(日)	調整中	①記録の書き方 ②面接技術について

●自立支援法委員会 委員募集！

2005年度より当協会では自立支援法学習会を立ち上げ、法制度の学習や情報提供と改善に向けての活動を行ってきました。法律が施行されて1年が経過しましたが、現場ではいろいろな困難が現実となってあらわれてきており、これらの実態を見極め課題を明らかにし必要な改善を訴えていくことが求められています。

そこで今年度より自立支援法委員会としてあらためて組織し、さまざまな取り組みをすすめていくメンバーを募集しています。ご連絡は事務局まで！

月川（生活支援センターらしく） 西村（川越病院）

【事務局からのお知らせ】

第8回精神保健福祉士全国統一模擬試験 開催のご案内

日時 2007年11月4日(日)

会場 キャンパスプラザ京都

昨年に引き続き、日本精神保健福祉士協会からの委託事業として上記模擬試験を開催いたします。詳細は、決まり次第ご案内させていただきます。

会員の動向

■所属変更

久木 美智子さん たかぎクリニック (旧 京都メンタルケア・アクション)

二星 理佐さん 京都メンタルケア・アクション (旧 立命館大学大学院)

福井 千賀子さん 春日診療所 (旧 つかさき医院)

■改姓

堀次 仁美 (ほりつぎ ひとみ) さん 宇治黄檗病院デイケアみらい
(旧 中村 仁美さん)

■所属機関名変更

地域生活支援センターふきのとう（旧 精神障害者地域生活支援センターふきのとう）

■所属機関所在地等変更

京都ひきこもりと不登校の家族会ノンラベル

新住所：〒601-8201 京都市南区久世川原町 115

電話：075-921-3338 ファクス：075-921-5055

メール・ホームページアドレスに変更はありません。

■入会

羽根 彩乃（はね よしの）さん	宇治黄檗病院
井上 康代（いのうえ やすよ）さん	宇治黄檗病院
小林 祥子（こばやし しょうこ）さん	宇治黄檗病院
金森 翔（かなもり しょう）さん	宇治黄檗病院
長原 一博（ながはら かずひろ）さん	京都市伏見障害者授産所
大井 梓（おおい あずさ）さん	瀬尾医院
木下 秀美（きのした ひでみ）さん	京都ひきこもりと不登校の家族会ノンラベル
深田 順子（ふかだ じゅんこ）さん	京都市北部精神障害者地域生活支援センターらしく
渡辺 三加子（わたなべ みかこ）さん	第二北山病院
入江 泰（いりえ やすし）さん	岩倉病院
堀江 久美子（ほりえ くみこ）さん	舞鶴市役所

＊所属機関の所在地等は会員名簿をご覧ください。

■会員数 2007 年 7 月 18 日現在 281 名

2007 年度会員名簿をお届けします

今年度より、書式を五十音順に変更し、機関別一覧もあわせて掲載し、より使いやすい名簿をめざしました。名簿をご確認いただき、記載内容に変更・誤り等がございましたら事務局までお知らせください。また、当会の定めた事業目的以外に会員名簿を使用することを禁じています。ご協力よろしくお願いいたします。

お気づきの点などございましたら、事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

【編集後記】

編集に際して、多くの方々の協力をいただきました。ありがとうございました。（花房）
お盆までに 55 号をお届けすることができ、ほっと一息です。（斉藤）